

どんどん発展する中国
経済同友会 中国視察団に参加して

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

(1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

先週の17日から22日まで中国に行ってきましたので、今日はそのお話をさせていただきます。

(2)日本には、経団連(経済団体連合会)や日本商工会議所、経済同友会などの経済団体があります。私は、開倫塾のある栃木県と群馬県、理事長をしている有朋学園有朋高等学校のある福島県の経済同友会にも入らせていただいています、東京にある公益社団法人の経済同友会にも入らせていただいています。

(3)東京の経済同友会の中には、中国委員会という大きな委員会があります。その中国委員会が2年に1度中国ミッション、つまり訪中団を組織しています。今年はちょうどその年にあたりましたので、せっかくのチャンスですから、勉強のために行かせていただきました。今日はそのお話をさせていただきます。

2. どんどん発展する中国 経済同友会 中国視察団に参加して

(1)団長は東京海上日動火災保険取締役会長の石原邦夫さんで、副団長は小松製作所取締役の大橋さんと三井不動産常務の斎藤さん、全日本空輸(全日空・ANA)執行役の西村さんでした。今回は、このとても熱心な団長・副団長さんに率いられた計20名の団員と、ワーキング・グループなどの随行員との総勢30名ほどで中国を訪問しました。

(2)まず最初に訪れたのは、現在盛んに開発されている四川省です。驚くことに、四川省の人口は9000万人を超えています。中国は沿岸部が非常に発達していて経済の牽引役を担っていますが、西部のほうをもっともっと開拓したいということで、国の全精力を傾けて西部の開発に力を入れています。その中心になっているのが四川省で、その省都である成都を訪ねました。ちなみに、成都のセイは成(な)る、トは都(みやこ)と書きます。

(3)ここは何で有名かという、パンダですね。経済同友会のミッション(訪中団)ではあまり観光をしないのですが、今回はパンダ繁殖基地の視察という形でそこを訪問させていただきました。パンダ繁殖基地には生まれたてのパンダがなんと6頭もいて、庭で遊んでいました。午後に行ったので、遊んでいたというよりはほとんど寝ていたのですが、飼育員の方がパンダを抱いてパンダの手を持ち、私たちのほうに「おいで、おいで」をして下さいました。とても可愛かったです。

(4)また、そこには1グループに20頭ぐらいのパンダがいたのですが、寝そべったり、こちらを見ていたり、木に登ったりしていて、忙しい視察旅行の中、団員全員が非常に癒され、慰められたようでした。改めてパンダはいいものだなと思いました。こんなに長い時間、また、数多くのパンダを見たのは私を含め生まれて初めての人が多かったので、行った人は皆喜んでいました。やはり、パンダ外交は素晴らしいなと思いました。

(5)それから、四川大地震の被害に遭ったところを視察させていただきました。地震でかなり破壊

された中学校の跡を記念といいますか、いつまでも心に刻むという意味で遺してあります。その地震の跡が偲ばれる映秀鎮を見てきました。

- (6) また、たまたま成都で西部大博覧会という国際博覧会が開かれていましたので、日本の展示会場に行き、日本がどのように四川省に進出しようとしているのかを見てきました。
- (7) そのあとは、四川省の副省長の方からお話を聞き、市長さんをはじめとするいろいろな方々と交流をしました。現在の中国は沿岸部の発展が目覚ましいが、これから先に伸びるのは西部だということで、我々をととても歓迎して下さいました。歓迎してくれた理由は、日本の企業に来てもらいたい・日本人に観光で来てもらいたい・日本人ともっと交流をしたいからということのようです。
- (8) 6月からは、成田から成都までの全日空の直行便が飛んでいます。所要時間はおよそ4時間半から5時間ぐらいでしょうか。とにかく6時間弱で行くことができます。昔は上海や北京乗り換えで9時間、10時間かかっていたのが、半分の時間でいけるようになり、非常に便利になりました。
- (9) 話は戻りますが、四川省の副省長さんや成都の市長さん、四川省にある成都以外の市の市長さんや副市長さんたちからは、日本の企業はもっと成都やそのほかの市に進出して下さい。そして、一緒に仕事をして下さいといったお願いをされました。この交流会の際に、四川大学の2人の学生さんに非常に親切に日本語の通訳や案内のボランティアをしていただきました。中国の学生さんも随分と頑張っているのだなと思いました。お二人とも英語は日本語よりもはるかに上手でした。
- (10) 四川省からの帰りがけに北京に寄り、社会科学院というところで一番有名なエコノミストの方と懇談をしました。また、以前に経済同友会で政治委員会の委員長などをされ、現在は大使として中国に行っていられる丹羽さんとお会いして、大使館で夕食を共にしました。そして、前の国務大臣、つまり外務大臣であった唐家璇(とうかせん)さんと釣魚台国賓館で2時間ばかり懇談をし、また、中国を今後どうするかという具体的なプランを考える国家発展改革委員会のメンバーの方々とディスカッションをしました。
- (11) 実際に行ってみるとわかりますが、中国は近代化が進み、大きな町は東京と同じ、いやそれ以上に非常に近代化しています。先ほどお話した成都には地下鉄が1本しかないのですが、これから2本目をつくるそうです。全部でいくつぐらいつくる予定なのか尋ねたところ、10年以内に10本以上つくるという答えでした。成都は1億人近くの人口を持つ四川省の省都ですから、多くの地下鉄が必要なのは当然かもしれません。
- (12) 中国には人口1000万人ぐらいの町がたくさんありますが、それらの町は東京と同じように都市基盤の整備を盛んに行っています。また、大学もたくさんつくっています。毎年670万人の学生が大学を卒業するということで、現在は就職難が大きな問題になっていますが、非常に優秀な方々もたくさん出てきています。今後は工業はじめ様々な分野の専門学校をつくったり、技術者を養成したりしたいということですので、日本もどうかしてはいただけません。中国ともっと関係を深めなければと思いました。

3. おわりに

今日は、東京の経済同友会の中国視察団の一員として中国の四川省成都と北京に行ったお話をさせていただきます。

以上

2012年4月25日加筆・修正 林明夫